

ニッケイ俳壇

(849)

富重久子 選
青木 駿浪

○余情なほ夕べとなりし庭四温
一病の妻を看取り春を待つ
光陰に加速ある如脚伸ぶ
癪えぬ妻見取り八年冬きびし
冬されて大地の景や山家あり

○冬季に三日寒い日が続きその後暖かい
日が四日あるのを三寒四温と言つが、最近
のサンパウロでも今年はそのような冬の気
候が続いている様に思う。この句は四温の夕暮れ時、家の庭に立ち
しんみりとした想いをこめて、なんとなく
安らいでいる作者の姿であろう。

○作者は病を得て八年という妻の看病をさ
れている。よくその様子や二人の写真、妻
の写真、見事な薔薇の写真などを送つてい
ただくが、その度に「よくここまで・」
という感に打たれる。どの句にも適切な季
語に、余情溢れる心情の佳句で、巻頭俳句
として推奨させて頂く。

○知らぬ間に山は眠らず拓か（ひらか）るる
移民夢の跡なる移住地に

○ラーメンの好きな子が居て冬温し
雨ふれば牽牛織女出でます

○うちの孫にもラーメンの好きな子）が
いて、学校の昼休みに、少なくとも一週間に
二回くらいは食べに行くという。孫は安く

○「山茶花や雨に零れし庭を掃く
寒紅をさして晴れし庭を掃く
冬の蝶溜りに羽広げをり
冬景色六百キロを突き走り

○「山茶花」は葉も花も椿に似ているが、
小さく小椿とか椿椿などとも呼ばれる。雪
白・淡紅濃紅・紅白交じりなどあり、とに

○山茶花や雨に零れし庭を掃く
寒紅をさして晴れし庭を掃く
冬の蝶溜りに羽広げをり
冬景色六百キロを突き走り

○「山茶花」は牧草の一葉で、遠くからで
冬の季語は「山眠る」であつて、「山は眠
らざず」ではどうであろう。珍しい俳句
である。

○「山茶花」は牧草の一種で、遠くからで
冬の季語は「山眠る」であつて、「山は眠
らざず」ではどうであろう。珍しい俳句
である。

